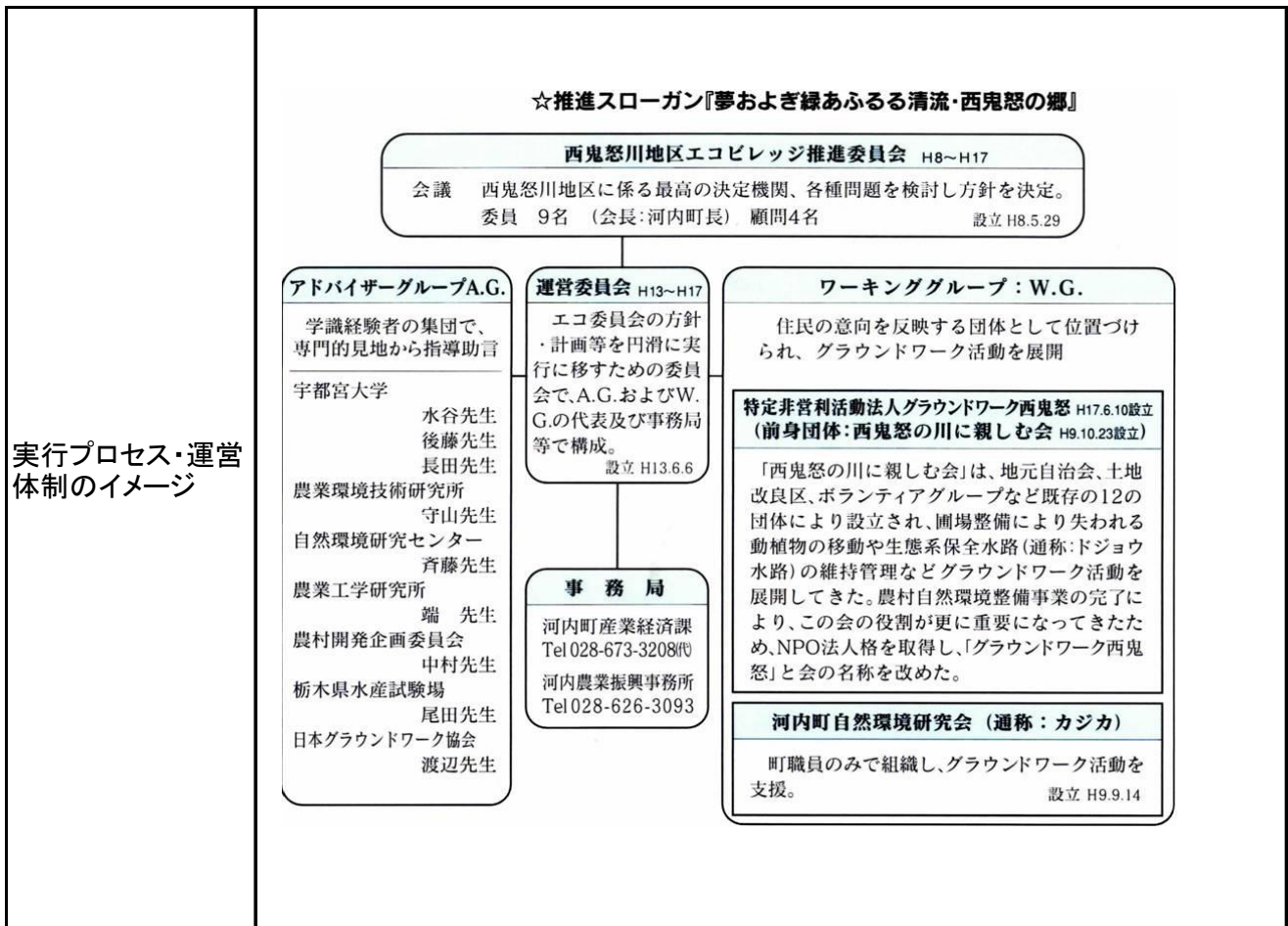


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	計画策定と実行プロセス
手法名	土地改良事業を契機とした里地里山保全活動の促進と運営の仕組みづくり
主体	NPO法人 グラウンドワーク西鬼怒
背景(地域の課題)	<p>田んぼの圃場整備をはじめとする土地改良事業は、効率的な営農を可能にする一方で、生物多様性の低下を招くことが指摘されている。</p> <p>そこで、生態系に配慮した農村環境整備が求められているが、こうした整備によって創出された農村環境は生物多様性を保全する反面、その維持管理にはきめ細かい作業と人手が必要とされ、地域の負担が増加してしまうことが指摘されている。</p> <p>そのため、農村集落だけでなく外部の参加者の受け入れ等を含めた継続的な保全活動の仕組みづくりが必要とされる。</p>
手法／方策の詳細	<p>(1) 土地改良事業による圃場の大規模化 西下ヶ橋地区では、対象面積の多くが集団化された生産団地としてまとめられることにより従来よりも営農効率を向上させている。</p> <p>(2) 自然環境整備事業に向けた準備と体制整備 上記の土地改良事業と合わせて、自然生態系に配慮した環境整備事業を計画。調査に当たっては大学と連携し、地元の検討委員会を結成し、計画を立案していく。</p> <p>(3) 自然環境整備事業の内容 農村環境を取り巻く自然環境の要素を網羅し、ハードだけではなくソフトの活動も視野に入れた施設整備を実施する。</p> <p>① 水のネットワークづくり(ドジョウ水路などを設置し、水辺の生き物の生息環境を創出)(図1・図2)</p> <p>② 緑のネットワークづくり(フウロウの営巣促進などを視野に入れながら、必要に応じて植栽や森の手入れ、巣箱設置等を実施)(図3)</p> <p>③ 農村公園を整備し、地元や外部者の憩いの場を整備すると共に関連施設に加工設備を設けることで、地元女性たちの活動場を作り出す等ソフト活動の活性化を促す。</p> <p>(4) 外部参加者と連携した持続的な活動の展開 創出された農村環境を維持管理していくための作業を、体験活動等のイベントと一体的に実施。外部参加を促して交流の要素を加味しながら地域活動を活性化させて持続的な維持管理を実現する。</p>
手法・技術的視点	<p>(1) 事業計画づくりを契機にした多様な主体のネットワークの構築 土地改良事業を契機に、里地里山保全に向けた計画やビジョンを策定。この際、行政、大学や研究機関、NPO団体、集落組織等の多様なネットワークを構築している。</p> <p>(2) ハードとソフトの両立による持続的な事業運営の仕組みを構築 また、ハード整備とソフト活動を地域内外の多様な主体の連携によって運営することにより、生物多様性を保持した田園環境を実現させている。</p>



実行プロセス・運営体制のイメージ



図・写真資料

参考資料 里なびin栃木パワーポイント資料(NPO法人グラウンドワーク西鬼怒)